学 科	柔道整復師学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期 土曜日·2限	教室名	第2校舎3F実技室
担当教員	澤 卓実 実務経験と その関連資格	専科教員(平成22年~ 講道館柔道初段(平成 従事)			

## 《授業科目における学習内容》

付属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身につける。

## 《成績評価の方法と基準》

1.レポート(20%)

2.授業態度と参加度(80%)

## 《使用教材(教科書)及び参考図書》

PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

#### 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

#### 《履修に当たっての留意点》

授第			内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術所の衛生管理について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を	
1	一形式	各コマに おける 授業予定	施術所の衛生管理と医療面接について	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	天自後の接首と丁首をしておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療面接について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	<b>宇羽仏の作羽し柔羽む</b>	
2回	自形式	各コマに おける 授業予定	施術所の衛生管理と医療面接について	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと	
3 🗓	一形式	各コマに おける 授業予定	キャストライト(ギプス)を用いた固定法	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料		
第	実習	授業を 通じての 到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェク ター、各種計測	<b>中羽似</b>	
4	育形式	各コマに おける 授業予定	キャストライト(ギプス)を用いた固定法	機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと	
第	宝 通じ	授業を 通じての 到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェク ター、各種計測	<b>中羽似</b>	
5 回	百形式	各コマに おける 授業予定	機器等、厚紙副	機器等、厚紙副 子、キャストライト	実習後の復習と予習を しておくこと	

	業の 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
6 回	形式	各コマに おける 授業予定	厚紙副子を用いた固定法	機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術の手法を理解する	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
7 回	形式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)導入(手法)	機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術の手法を理解する	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
8 🗓	形式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)導入(手法)	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	人でおくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	カルテ記載ができるようになる	PC、プロジェク ター、各種計測	宝翌後の復翌レ予翌を
9	形式	各コマに おける 授業予定	カルテ記載の概要・演習	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	カルテ記載ができるようになる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
10回	ョ形式	各コマに おける 授業予定	カルテ記載の概要・演習	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習をしておくこと
11 回	形式	各コマに おける 授業予定	保険制度概要(制度および法規)	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
12	形式	各コマに おける 授業予定	保険制度概要(制度および法規)	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	人でおくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
13 回	ョ形式	各コマに おける 授業予定	保険制度概要(計算方法)	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	大百ない後百と丁百をしておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
14 回	百形式	各コマに おける 授業予定	保険制度概要(計算方法)	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	美自後の復首とデ首を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	紹介状などの記載ができるようになる	PC、プロジェク ター、各種計測	宝羽丝∩街羽↓圣羽⊁
15 回	育形式	各コマに おける 授業予定	紹介状・礼状の記載方法演習(高診用)	機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと

学 科	柔道整復師学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	前期 土曜日·2限	教室名	第2校舎3F実技室
担当教員	澤 卓実 実務経験と その関連資格	専科教員(平成22年~ 講道館柔道初段(平成 従事)	現在に至る)、認定実技 29年)、附属接骨院(平		

## 《授業科目における学習内容》

付属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身につける。

## 《成績評価の方法と基準》

1.レポート(20%)

2.授業態度と参加度(80%)

## 《使用教材(教科書)及び参考図書》

PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

#### 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

#### 《履修に当たっての留意点》

	業の 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	紹介状などの記載ができるようになる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
16 回	一形式	各コマに おける 授業予定	紹介状・礼状の記載方法・演習(高診用)	機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	天自後の接首と丁首をしておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェク ター、各種計測	中羽然の復調し マ羽ナ、
17 回	百形式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習①	機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェク ター、各種計測	中羽然の佐羽して羽た
18	育形 式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習①		実習後の復習と予習を しておくこと
第	実	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェク ター、各種計測	H713 W 0 /H713 1 7 73 2
19	習形式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習②	機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェク ター、各種計測	中羽然の復期 1. マ羽ナ
20 回	音形式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習②	機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと

	業の法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復師として必要な心得を理解する	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
21 回	育形式	各コマに おける 授業予定	臨床現場に出るために柔道整復師として必要な心得	機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実質後の復省とす省を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	これまでの臨床実習の振り返りを行い気づきを得る	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
22 回	形式	各コマに おける 授業予定	振り返り	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	というない。
第	実習	授業を 通じての 到達目標	これまでの臨床実習の振り返りを行い改善案を策案する	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
23 回	百形式	各コマに おける 授業予定	振り返り	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	夫首体の復首とア首をしておくこと
第		授業を 通じての 到達目標			
24		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
25 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
26回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
27		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
28 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
29 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
30 □		各コマに おける 授業予定			

学 科	柔道整復師学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎附属治療所
担当教員	河上修・福士曉也・仲村 剛・岩村一成・澤卓実・林 了大 実務経験と その関連資格				

## 《授業科目における学習内容》

臨床現場における柔道整復師の役割、医療面接から施術までの知識と技術を習得する

## 《成績評価の方法と基準》

1.レポート(20%)

2.授業態度と参加度(80%)

## 《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

# 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

## 《履修に当たっての留意点》

授第			内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	臨床実習の目的・目標の概説説明	柔道整復学・理	実習後の復習と予習を
1 🗓	一形式	各コマに おける 授業予定	オリエンテーション	論構第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	天自後の接自とす自をしておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復師としての倫理を理解する	柔道整復学・理	<b>宇羽公の復羽し子羽た</b>
2	自形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復師としての倫理-1	論構第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復師としての倫理を理解する	柔道整復学・理	字羽然の復羽し子羽た、
3 [	自形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復師としての倫理-2		実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者との接し方を理解する	柔道整復学・理	
4 □	育形式	各コマに おける 授業予定	患者との接し方-1	扁編界の扱わよい 柔道整復学・実 技編第2版	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者との接し方を理解する	柔道整復学・理	中羽似 n 作羽 l 之羽 ナ.
5 回	育形式	各コマに おける 授業予定	患者との接し方-2	論編第6版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	実習後の復習と予習を しておくこと

	業の 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6	実習	授業を 通じての 到達目標	患者との接し方を理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	実習後の復習と予習を
0	形式	各コマに おける 授業予定	患者との接し方-3	柔道整復学•実 技編第2版	しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術録の作成を実施し内容を理解する	柔道整復学・理	実習後の復習と予習を
7 回	自形式	各コマに おける 授業予定	施術録の作成-1	福編第50版ねまび 柔道整復学・実 技編第2版	天自後の後自と了自をしておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術録の作成を実施し内容を理解する	柔道整復学・理	<b>宇羽公の復羽し子羽た</b>
8 🗓	百形式	各コマに おける 授業予定	施術録の作成-2	扁編第5版ねるの 柔道整復学・実 技編第2版	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術録の作成を実施し内容を理解する	柔道整復学・理論編第6版および	実習後の復習と予習を
9	形式	各コマに おける 授業予定	施術録の作成-3	柔道整復学·実 技編第2版	美省俊の復省と下省を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	実習後の復習と予習を しておくこと
10回	形式	各コマに おける 授業予定	医療事故・過誤の防止-1	柔道整復学·実 技編第2版	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学•理 	実習後の復習と予習を しておくこと
11 回	形式	各コマに おける 授業予定	医療事故・過誤の防止-2	元 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	中国公の佐切しマロエ
12 回	形式	各コマに おける 授業予定	医療事故・過誤の防止-3	柔道整復学·実 技編第2版	しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	実習後の復習と予習を
13	形式	各コマに おける 授業予定	医療事故・過誤の防止-4	柔道整復学·実 技編第2版	しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療事故・過誤の防止を理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	実習後の復習と予習を
14 回	自形式	各コマに おける 授業予定	医療事故・過誤の防止-5		大百ない後百と丁百をしておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別を理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	実習後の復習と予習を
15 回	自形式	各コマに おける 授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-1	福編集の扱わるの 柔道整復学・実 技編第2版	天首後の役首と「首をしておくこと

学 科	柔道整復師学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生	学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎附属治療所
担当教員	川上修・福士曉也・仲村 剛・岩村一成・澤卓実・林 ア大 実務経験と その関連資格				

#### 《授業科目における学習内容》

臨床現場における柔道整復師の役割、医療面接から施術までの知識と技術を習得する

## 《成績評価の方法と基準》

1.レポート(70%)

2.授業態度と参加度(30%)

## 《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

# 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

#### 《履修に当たっての留意点》

授美	集の 法	) <u> </u>	内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別を理解する	柔道整復学・理	実習後の復習と予習を
16 回	形式	各コマに おける 授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-2	福州第0版名なび 柔道整復学・実 技編第2版	大百ない後百と丁百をしておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別を理解する	柔道整復学・理	<b>宇羽仏の復羽し子羽む</b>
17 回	百形式	各コマに おける 授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-3	論編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の誘導を理解する	柔道整復学・理	中羽然の復羽して羽た。
18	自形式	各コマに おける 授業予定	患者の誘導-1	論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	天百後の役首と了首をしておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の誘導を理解する	柔道整復学・理	
19 回	百形式	各コマに おける 授業予定	患者の誘導-2	論編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	接骨院業務を理解する	柔道整復学・理	中羽似の復羽しる羽4.
20回	育形式	各コマに おける 授業予定	附属治療所補助−1	論編第6版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	実習後の復習と予習を しておくこと

	業の 法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	接骨院業務を理解する	¥柔道整復学・ 理論編第6版およ	実習後の復習と予習を
21 回	形式	各コマに おける 授業予定	附属治療所補助-2	び柔道整復学・ 実技編第2版	しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	接骨院業務を理解する	柔道整復学・理	実習後の復習と予習を
22 回	自形式	各コマに おける 授業予定	附属治療所補助-3	福編第50版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	天自後の後首と了首をしておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	今期における治療所実習を振り返り気づきを得る	¥柔道整復学・ 理診短常はたまた	実習後の復習と予習を
23 回	自形式	各コマに おける 授業予定	附属治療所実習振り返り	西編編第0版ねる び柔道整復学・ 実技編第3版	天自後の復首と了首をしておくこと
第	講義実	授業を 通じての 到達目標			
24	美習 形式	各コマに おける 授業予定			
第	講義	授業を 通じての 到達目標			
25 回	実習形式	各コマに おける 授業予定			
第	講義実	授業を 通じての 到達目標			
26 回	美習形式	各コマに おける 授業予定			
第	講義実	授業を 通じての 到達目標			
27	美習 形式	各コマに おける 授業予定			
第	講義実	授業を 通じての 到達目標			
28 回	美習形 式	各コマに おける 授業予定			
第	講義宝	授業を 通じての 到達目標			
29 回	習を	各コマに おける 授業予定			
第	講義宇	授業を 通じての 到達目標			
30 □	実習形式	各コマに おける 授業予定			

学 科	柔道整復師学科		科	目	区	分	専門分野	授業の方法		実習	7 1
科目名	臨床実習		必修	/選	択0	D別	必修	授業時数(単位数)	45	(1)	時間(単位)
対象学年	2年生		学期	及び	曜田	寺限	前期 土曜日·2限	教室名	第2校	舎附属	属施術所
担当教員	澤卓実	実務経験と の関連資格	専科教 講道館 従事)	員(平 柔道	Z成2: 初段	2年~ (平成	現在に至る)、認定実 29年)、附属接骨院( <sup>エ</sup>	支審査員(平成2 <sup>区</sup> 成19年~平成2	9年:整 26年:柔	復実技 道整復	) 夏業務に

## 《授業科目における学習内容》

1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。

#### 《成績評価の方法と基準》

出席評価:80% レポート評価:20%

#### 《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

## 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

#### 《履修に当たっての留意点》

授美	巣の	で目分に	<u> 「足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。</u> <b>内 容</b>	使用教材	授業以外での準備学習
方	法		r) 台	医用软物	の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理 論編第6版および	
1 回	ョ形式	各コマに おける 授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-4	端編第6版名なり、 柔道整復学・実 技編第2版	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学•理	前回の実習内容の振り
2 回	百形式	各コマに おける 授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-5	編編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の美育内谷の振り返りを行っておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理	<b>並同の字羽内宏の乍り</b>
3 □	百形式	各コマに おける 授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-6	・論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	前回の美質内谷の振り返りを行っておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理	<b>並同の実現中空の作</b> り
4 □	育形式	各コマに おける 授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-7	論編界の扱わよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる	柔道整復学・理	<b>並同の字羽内宏の生</b> り
5 回	智形式	各コマに おける 授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-8	論編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと

	<b>業の</b> 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療機関等との連携理解でき実践できる	柔道整復学・理 論編第6版および	前回の実習内容の振り	
6 □	形式	各コマに おける 授業予定	医療機関等との連携-1	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実 到達目		医療機関等との連携理解でき実践できる	柔道整復学・理	並同の実習 中京のFM	
7 回	自形式	各コマに おける 授業予定	医療機関等との連携-2	編編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療機関等との連携が理解でき実践できる	柔道整復学・理	<b>並同の実現内容の長</b> り	
8	音形式	各コマに おける 授業予定	医療機関等との連携-3	端編第6版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理 → 診察第6時なとび	前回の実習内容の振り	
9 回	自形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-1	柔道整復学·実 技編第2版	町凹の美貴的谷の旅り 返りを行っておくこと	
第	実習 3	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
10回	百形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-2	福編第8版ねるの 柔道整復学・実 技編第2版	前回の美質内容の振り返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理	<b>並同の実羽巾索の垢</b> M	
11 回	自形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-3	編編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
12	形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-4	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	・理 柔道整復学・理 ☆ ショラ きゅうしょう	前回の実習内容の振り	
13 回	形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-5	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者への指導を理解し実践できる	柔道整復学・理	前回の宝翌内宏の垢り	
14	百形式	各コマに おける 授業予定	患者への指導-1	福編第8版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	患者への指導を理解し実践できる	柔道整復学・理	前回の宝羽内宏の伝り	
15	智形式	各コマに おける 授業予定	患者への指導-2	論編第6版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	

学 科	柔道整復師学科		科	目	区	分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習		必修	/選	択0	D別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期	及び	曜田	寺限	前期 土曜日·2限	教室名	第2校舎附属施術所
担当教員	澤卓実	実務経験と その関連資格	専科教 講道館 従事)	員(平 柔道	☑成2: 初段	2年~ (平成	現在に至る)、認定実技 29年)、附属接骨院(平	技審査員(平成2 成19年~平成2	9年:整復実技) 26年:柔道整復業務に

## 《授業科目における学習内容》

1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。

## 《成績評価の方法と基準》

出席評価:80% レポート評価:20%

#### 《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

## 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

#### 《履修に当たっての留意点》

授美		\	「足りない知識をせひ見つけて質問して下さい。 内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
16回	形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-6		返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理	並同の実現内容の振り	
17 回	音形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-7	論編界の扱わよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
18	百形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-8	論編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の美育的各の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学•理		
19 回	督形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-9	論編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する	柔道整復学・理	<b>並同の字羽内宏の乍り</b>	
20	質形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-10	論編第6版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	

	業の法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	前回の実習内容の振り
21 回	1形式	各コマに おける 授業予定	KYT:危険予知トレーニング−1		返りを行っておくこと
第	実習.	授業を 通じての 到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り
22 回	形式	各コマに おける 授業予定	KYT:危険予知トレーニング−2	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理  論編第6版および	前回の実習内容の振り
23 回	自形式	各コマに おける 授業予定	KYT:危険予知トレーニング-3	福編第80版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前回の美育内谷の振り返りを行っておくこと
第		授業を 通じての 到達目標			
24 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
25 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
26 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
27 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
28 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
29 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
30 □		各コマに おける 授業予定			

学 科	柔道整復師学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	附属治療所·外部接骨院
担当教員	河上修・福士曉也・仲村 剛・岩村一成・澤卓実・林 了大 実務経験と その関連資格				

## 《授業科目における学習内容》

1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。

#### 《成績評価の方法と基準》

出席評価:80% レポート評価:20%

#### 《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

## 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

#### 《履修に当たっての留意点》

授美		2719	内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	
1	自形式	各コマに おける 授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-1	端編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学•理	前回の実習内容の振り
2	百形式	各コマに おける 授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-2	論編第0版ねよび 柔道整復学・実 技編第2版	前凹の美質内谷の振り 返りを行っておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標 羽	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと
3	自形式	各コマに おける 授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-3		
第	実習	授業を 通じての 到達目標	多職種連携(IPW)ワークを通じてIPWを理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと
4	育形式	各コマに おける 授業予定	多職種連携(IPW)ワーク-4	論編界の扱わよび 柔道整復学・実 技編第2版	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習に関しての注意事項や心構えを理解する	柔道整復学・理	
5 回	督形式	各コマに おける 授業予定	外部実習 事前研修-1	論編第6版おより 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと

	<b>美の</b> 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習に関しての注意事項や心構えを理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	前回の実習内容の振り	
6 □	形式	各コマに おける 授業予定	外部実習 事前研修-2	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	授業を通じての 到達目標		外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
7 回	形式	各コマに おける 授業予定	外部実習-1	柔道整復学·実 技編第2版	肌凹の美質内谷の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理 - 論編第6版および	前回の実習内容の振り	
8	形式	各コマに おける 授業予定	外部実習-2	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理 する	柔道整復学・理 論編第6版および	前回の実習内容の振り	
9	שלים פ	各コマに		柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実 第 習	授業を 通じての 到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理する	柔道整復学•理	前回の実習内容の振り	
10回	一形式	各コマに おける 授業予定	実習振り返り-2	福州第0版および 柔道整復学・実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学•理	* 英国の実現内党の作り	
11 回	一形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の臨床的施術-1	ー論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	前回の美質内容の振り返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
12	形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の臨床的施術-2	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
13 回	形式	各コマに おける 授業予定	外部実習-3	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理 論編第6版および	前回の実習内容の振り	
14	百形式	各コマに おける 授業予定	外部実習-4	福棚男の扱わよい 柔道整復学・実 技編第2版	前回の美質的谷の振り返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理 する	柔道整復学・理	並同の宇羽中空のFin	
15 <b>□</b>	習形式	各コマに おける 授業予定	実習振り返り-3	「論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	

学 科	柔道整復師学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	2年生	学期及び曜時限	後期	教室名	附属治療所·外部接骨院
担当教員	河上修・福士曉也・仲村 剛・岩村一成・澤卓実・林 了大 実務経験と その関連資格				

## 《授業科目における学習内容》

1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要となる技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。

#### 《成績評価の方法と基準》

出席評価:80% レポート評価:20%

#### 《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

## 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

#### 《履修に当たっての留意点》

		や目分に	足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。	<b>I</b>	授業以外での進供学習	
授 <sup>美</sup> 方			内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理 する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
16	ョ形式	各コマに おける 授業予定	実習振り返り-4	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
17	自形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の臨床的施術-3	福編第0版ねるの 柔道整復学・実 技編第2版	前凹の美質内谷の振り 返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の臨床的施術を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り	
18	育形式	各コマに おける 授業予定	柔道整復術の臨床的施術-4	福編第8版ねよい 柔道整復学・実 技編第2版	前回の美質的各の振り返りを行っておくこと	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	
19 回	智形式	各コマに おける 授業予定	外部実習-5	扁編第0版ねよい 柔道整復学・実 技編第2版		
第	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習を通じて接骨院業務の実際を理解する	柔道整復学・理	並同の宝器内容の生り	
20	育形式	各コマに おける 授業予定	外部実習-6	福編第8版ねよい 柔道整復学・実 技編第2版	前回の実習内容の振り 返りを行っておくこと	

	業の 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 21	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理 する	柔道整復学・理 論編第6版および	前回の実習内容の振り
回	形式	各コマに おける 授業予定	実習振り返り-5	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと
第 22	実習	授業を 通じての 到達目標	外部実習の振り返りを実施し次回実習に向けての内容を整理 する	柔道整復学・理 論編第6版および	前回の実習内容の振り
回	形式	各コマに おける 授業予定	実習振り返り-6	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	2年次の臨床実習を振り返り気づきを得る	柔道整復学・理 - 論編第6版および 柔道整復学・実	前回の実習内容の振り
23 回	形式	各コマに おける 授業予定	総まとめ(2年実習の振り返り)	柔道整復学·実 技編第2版	返りを行っておくこと
第		授業を 通じての 到達目標			
24		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
25		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
26 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
27 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
28 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
29 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
30 回		各コマに おける 授業予定			

学 科	柔道整復師学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生	学期及び曜時限	前期 火曜日1・2限目	教室名	2校舎附属施術所
担当教員	河上修・川村智広・林了大 実務経験と その関連資格				

## 《授業科目における学習内容》

付属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身につける。

## 《成績評価の方法と基準》

1.レポート(20%)

2.授業態度と参加度(80%)

# 《使用教材(教科書)及び参考図書》

PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

#### 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

## 《履修に当たっての留意点》

授第	<b>業の</b> 法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術所の衛生管理について理解できる		実習後の復習と予習を しておくこと
1	ョ形式	各コマに おける 授業予定	施術所の衛生管理と医療面接について		
第	実習	授業を 通じての 到達目標	医療面接について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
2	百形式	各コマに おける 授業予定	施術所の衛生管理と医療面接について	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	固定法を理解し、実施できる		実習後の復習と予習を しておくこと
3	形式	各コマに おける 授業予定	キャストライト(ギプス)を用いた固定法		
第	実	授業を 通じての 到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
4 □	習形式	各コマに おける 授業予定	キャストライト(ギプス)を用いた固定法	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	
第	通じ	授業を 通じての 到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェク ター、各種計測	中现从 の 佐 羽 し マ 羽 ナ
5 回	貿形式	各コマに おける 授業予定	厚紙副子を用いた固定法	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと

	業の 法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	固定法を理解し、実施できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
6 回	形式	各コマに おける 授業予定	厚紙副子を用いた固定法	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術の手法を理解する		実習後の復習と予習を しておくこと
7 回	形式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)導入(手法)		
第	実習	授業を 通じての 到達目標	施術の手法を理解する	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
8 回	形式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)導入(手法)	燃架室 圓紙副	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	カルテ記載ができるようになる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
9回	形式	各コマに おける 授業予定	カルテ記載の概要・演習	機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	カルテ記載ができるようになる	PC、プロジェク ター、各種計測 機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
10回	形式	各コマに おける 授業予定	カルテ記載の概要・演習		
第	実習	夫 到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測 機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
11 回	形式	各コマに おける 授業予定	保険制度概要(制度および法規)		
第	実習	授業を 通じての 到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
12 回	形式	各コマに おける 授業予定	保険制度概要(制度および法規)	燃架室 同純副	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測	<b>宇羽公の復羽し子羽た</b>
13 回	3   日	保険制度概要(計算方法)	機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと	
第	実習形式	授業を 通じての 到達目標	保険制度について理解できる	PC、プロジェク ター、各種計測 機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
14 回		各コマに おける 授業予定	保険制度概要(計算方法)		
第	実習	授業を 通じての 到達目標	紹介状などの記載ができるようになる	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を
15 回	回  形  :	各コマに おける 授業予定	紹介状・礼状の記載方法演習(高診用)	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	天自後の接角とするをしておくこと

学 科	柔道整復師学科	科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	臨床実習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	3年生	学期及び曜時限	前期 火曜日1・2限目	教室名	第2校舎附属治療所
担当教員	河上修・川村智広・林了大 その関連資格				

## 《授業科目における学習内容》

付属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身につける。

## 《成績評価の方法と基準》

1.レポート(20%)

2.授業態度と参加度(80%)

## 《使用教材(教科書)及び参考図書》

PC、プロジェクター、各種計測機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料柔道整復学・理論編第6版および柔道整復学・実技編第2版

#### 《授業外における学習方法》

シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。

#### 《履修に当たっての留意点》

授第	業の 法	内容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習	授業を 通じての 到達目標	紹介状などの記載ができるようになる	PC、プロジェク ター、各種計測	<b>中羽</b> 然の復知 l. ヱ羽≁.
16回	自形式	各コマに おける 授業予定	紹介状・礼状の記載方法・演習(高診用)	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
17 回	百形式	各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習①	燃架空 巨紅河	
第	<del>_t</del>	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェク ター、各種計測 機器等、厚紙副 子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
18		各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習①		
第	実	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェク ター、各種計測	中国公の4月331、マココナ
19	習形 各コマに おける 授業予定		診察(施術)実習②	機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
第	実習形式	授業を 通じての 到達目標	実習を通して、施術の理解を深める	PC、プロジェク ター、各種計測	字羽丝亦作羽 L 子羽 + 、
20回		各コマに おける 授業予定	診察(施術)実習②	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと

	業の法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第	実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復師として必要な心得を理解する	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
21 回		各コマに おける 授業予定	臨床現場に出るために柔道整復師として必要な心得	機器等、厚紙副子、キャストライト等の固定材料	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	これまでの臨床実習の振り返りを行い気づきを得る	PC、プロジェク ター、各種計測	実習後の復習と予習を しておくこと
22 回	形式	各コマに おける 授業予定	振り返り	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	
第	実習	授業を 通じての 到達目標	これまでの臨床実習の振り返りを行い改善案を策案する	PC、プロジェク ター、各種計測	<b>宇羽公の復羽し子羽</b> な。
23 回	百形式	各コマに おける 授業予定	振り返り	機器等、厚紙副子、キャストライト 等の固定材料	実習後の復習と予習を しておくこと
第		授業を 通じての 到達目標			
24		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
25 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
26		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
27		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
28 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
29 回		各コマに おける 授業予定			
第		授業を 通じての 到達目標			
30 □		各コマに おける 授業予定			